

研究紀要第 29 号の発刊に寄せて

学 長 佐 藤 三 武 朗

大学の使命は、研究と教育にあります。研究と教育を通じて、大学は時代が必要とする人材の育成と、社会が要請する課題の解決に協力することになります。とりわけ、佐野日本大学短期大学には、佐野市に唯一立地する単科大学として、地域連携を基軸として、即戦力のある人材の育成が課せられています。

研究には、グローバルな視野を持って、大規模な成果を求めるチャレンジングな内容と、ローカルな視点から、地味ではあるが根気よく取り組む内容とがあります。後者は、華々しさこそありませんが、地域住民の幸福や安寧に結びつく成果をあげる点で重要であると、私は考えます。

本学は平成 27 年度に創立 25 周年を迎え、大学の名称も佐野短期大学から佐野日本大学短期大学へ変わりました。名称の変更は、意識と組織の改変を目指すものです。その意味で、今回の研究紀要第 29 号の発刊は、意義深いものがあると思います。

今回は、論文が二篇、研究ノートが六篇、教育ノートが二篇、報告が一篇です。

本学の総合キャリア教育学科には、9つのフィールドがあります。個々のフィールドが相互に関係し、連携を持つところに、本学の特色が発揮されます。最初の論文である「保育者に求められる表現の育成に関する考察」で指摘されているように、保育者のみならず、教育者一般に必要な責務は、「生きる力」の基礎となる「豊かな感性」を育むことです。

大観光時代を迎えた、これからの日本は、グローバル化に向けた対応が急がれます。「世界産業遺産の分類、地域分布及び影響因子についての分析」は、産業遺産保護分野の権威的な一次資料を踏まえた研究です。経済力が弱小な国々にとって、世界遺産の保護に必要な資金を確保することは困難であるが、日本や中国を含めた他の国々もまた、これから解決すべき種々の課題があることを暗示させる内容でした。

研究ノートや教育ノート、さらには報告を読むと、綿密な資料収集やアンケートを通じて、研究論文として扱いたいテーマがあることに、私は気付きました。

本学の研究には、多くのフィールドを持つという特色からして、学際的な内容の成果が多いことも分かりました。共同研究などを通じて、お互いに切磋琢磨して、研究成果を教育と指導に、さらには地域貢献に役立てて下されば幸いです。先生方のさらなる精進を期待する次第です。